



しまねの 学力育成 プロジェクト

～2年目の取組事例紹介～



令和6年3月
島根県教育委員会

しまねの学力育成プロジェクト（1～2年目の取組事例紹介）

※ **Point** **Point** …各市町村で活用される際のポイントを示したものです。
※この紙面で紹介しているものは各市の取組の一部です。詳しくは各市の取組等をご確認ください。

「しまねの学力育成推進プラン」を実現するための学力育成事業の実施

授業改善の取組

- **思考力、判断力、表現力を高める学習活動の工夫。【松江】**
 - ・必要感、目的が明確な対話場面や様々な方法で自分の考えを表現する場面の設定。
 - ・ICT機器や思考ツールなどの効果的な活用。
- **協働的な学びを重視した授業づくり。【安来】**
 - ・対話を促すためのICT機器の活用。
 - ・導入を短時間にし、個人の思考時間及び集団思考そして振り返りの時間を確保。
- **めあてと振り返りを意識した授業スタンダードと授業におけるPDCAフロー図の活用。【出雲】**
 - ・各校の実践に対して学校訪問で伴走。事前研究＋授業＋授業協議の3本柱。
- **子どもにとっても教師にとっても楽しい授業づくり。【雲南】**
 - ・能力ベースの授業づくり研修会。【授業づくり＋授業実践＋研究協議＋講義】
- **「能力ベースの授業づくり」視点とした市全体での取組の推進。【大田】**
 - ・学校訪問通覧指導及び授業づくり講座【教材研究会と授業研究会】を軸とした教員の授業力向上。



Point

- 実態の把握に基づく具体的な実践
- 「なぜ取組を進めるか」の共通理解
- 教育委員会の支援体制

家庭学習充実への取組

- **AIDリルの導入。【安来】**
 - ・家庭学習の時間や授業時間、朝自習の時間等を使い、活用の幅を広げる。
 - ・家庭学習の在り方について、市内担当者対象に研修会実施。

Point

- AIDリルの具体的な活用方法の提示と見直し
- 主体的に学ぶ児童生徒の育成と家庭学習の関係性に着目した研修の実施



教員の資質向上への取組

- **研究協議の改善…参観者は、授業の評価基準を把握したうえで参観する。【出雲】**
 - ・事前研究における授業の評価基準の吟味の重要性。
- **経験の浅い教員への支援の充実。【雲南】**
 - ・年間計21コマの講座 授業実践事例の共有。
- **だれでも、いつでも、学べる場の提供。【大田】**
 - ・学力育成に係るデータベースの作成。

Point

- 「おおむね満足」の姿の明確化
- ネットワークを生かした情報共有
- 情報へのアクセスを簡便にする取組

研修体制・伝達体制の充実

- **授業研究会に学力向上担当者が必ず参加する体制構築、オンライン会議の実施。【松江】**
- **学力向上訪問に合わせ、生徒指導、特別支援教育担当者も同行して訪問の実施。【安来】**
 - 市として共通理解する事項を伝え、管理職とともに学力育成について話し合う時間を重視。
- **悉皆研修の内容を見直し。【特別支援教育のみ→特別支援教育＋学力育成】【安来】**
- **授業改善推進リーダーの指名。【出雲】**
 - 年度初め、校長＋授業改善推進リーダーが出席する会議の実施。
 - 校長と授業改善推進リーダーが同じ話題で話し合う場の確保。
- **学力育成リーダー対象の研修会の実施。【雲南】**
 - 学力育成リーダーの意欲を高めるための関わり。
- **教育委員会、校長会、教育研究会の連携強化。【大田】**
 - 研修会を相互に連携させ、「自ら学ぼうとする教員、学校を支える」体制構築。
- **各校の実践、研修会の様子などを市内ネットワークで共有する取組。【雲南・大田】**
- **市内教員の自主研修会の立ち上げ。【大田】**
 - 教育委員会も全面的にバックアップする体制構築。



Point

- 組織マネジメントを意識した展開
- ミドルリーダーの育成
- 各校の取組の情報の集約及び展開（教育委員会）
- 研修会の実施（教育委員会）

しまねの学力育成プロジェクト（1～2年目の取組事例紹介）

※ **Point** **Point** …各市町村で活用される際のポイントを示したものです。

※この紙面で紹介しているものは各市の取組の一部です。詳しくは各市の取組等をご確認ください。

「本物に学ぶ」学校外部の活用

本物体験の充実→児童生徒の興味・関心・意欲の喚起

※予算の問題、学校規模による実施上の課題

本物体験の充実

●本物に触れる活動の充実。

【松江、安来、出雲、雲南、大田】

- ・県内の施設の活用。
- ・島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、県立高等学校との連携。

●各市所在の施設活用。【安来、出雲、大田】

- ・和鋼博物館、出雲科学館、三瓶自然館サヒメルなど。

●NPO法人等との連携。【大田】

- ・「理科読」の実施。
- ・プログラミング学習の実施。



Point

- 外部リソースの発掘及び活用
- 高等教育機関との連携

1年目の取組をさらに深めるための連携

●指導主事、社会教育主事が中心となった学習パッケージの作成。【安来】

- ・「ゼロ予算でできる」「各校が利用しやすい」体験のパッケージを指導主事・社会教育主事、地域の関係機関と協力して作成。
- ・地域の思いと学校の思いのマッチング。
- ・体験だけで終わらせない、「事前・事後の活動」の充実。

Point

- 地域素材の掘り起こし
- 指導主事、社会教育主事のチーム
- 自治体内各課との連携

他市の取組例から自市の取組を発展させる取組

●他市の取組を自市の取組に活かす。【松江】

- ・実施している学習と地域素材との結び付け、外部人材を活用した学びの深化。（乃白川、宍道湖の学習…ゴビウスの活用）
- ・大田市の取組を参考に松江工業高等専門学校と連携して、出前講座の実施。



Point

- 情報交換を通じた、自市の取組の再確認及び改善
- 県内のネットワークの有用性

学力育成協議会の実施

●学力育成協議会の実施【松江、安来、出雲、雲南、大田】

- ・学校関係者、保護者、地域の方等の参画。
→学校内外の見方を合わせ、より具体的な視点に基づいた取組方針の決定、成果検証を行うことができる体制構築。
- ・協議会メンバーの研修会、授業研究会等への参加。
→感想等を返してもらうことによる授業者や学校の意欲向上。

Point

- 「社会に開かれた教育課程」の実現
- チームで教育を支える体制の構築

プロジェクトチーム会議の実施

●プロジェクトチーム会議の情報共有から、他市の取組を参考にし、自市の取組に活かした例。

- ・雲南市の取組を参考に、学校訪問の方法を変更。【安来】
- ・大田市の取組を参考に、外部人材を活用した本物体験の実施。【松江】

Point

- 他自治体の取組を参考に、自治体の取組を強化

経年変化調査の実施

●児童生徒の経年変化を把握することで、取組の効果検証を実施。

- 児童生徒の紐づけ等に課題。
- ・調査の分析方法の改善。

【正答率から解答類型の把握へ】

各市の取組【以下のリンクをクリックすると該当ページへジャンプします。】

松江市

安来市

出雲市

雲南市

大田市

松江市

指導案・配付資料等は
以下リンク及び
二次元コードから
ID・パスワードが必要です。



松江市

全国学力・学習状況調査、島根県学力調査結果から見える課題

- ・自分の考えを文章で表したり、解法を言葉で説明したりすることができない児童生徒の割合が高い（無解答率が高い）
- ・全国値と比較して、成績の上位層の割合が少ない
- ・中学生の家庭学習の時間が全国値よりも低い

令和5年度

児童生徒の「表現力を高める」ための効果的な学力育成モデルを探る

- ・乃木小学校：「対話したくなる授業づくり」に重点を置いた取組
- ・湖南中学校：「一貫性のある授業の展開（めあて～ふりかえり）」に重点を置いた取組

松江市立乃木小学校

- 「子どもを中心に置くこと」「教職員の語り」を大切にしながら具体的な手立て（仮設）を設け、全教職員で実践
- ・具体的な手立て（仮設）を単元や1単位時間の中に組み込んだ授業づくり

自分の問いを解決するために資料を選ぶ
(1人1台端末の活用)



実験の様子を1人1台端末で撮影
(ICTを活用した対話)



本物に触れる体験
(ゴビウス訪問)



教師が子どもや授業づくりに向き合えるための取組（教員研修）



松江市立湖南中学校

- 協働的な学びの場面を全教科で設定
- ・習熟度別授業の実施
- ・デジタル教科書、タブレットドリルの活用
- ・授業のふり返りの記述（全教科）
- ・生徒の表現力が高まった姿の検討
- ・松江工業高等専門学校「出張講座」の利用

本物に触れる体験
(出張講座)



デジタル教科書の活用



授業の振り返りの様子



取組の普及（市内全校に）

- ・各校の学力育成担当参加による公開授業の実施
- ・成果報告会による研究校の取組の共有

令和5年度の取組を受けた令和6年度に向けた展望

- 「授業（単元）児童生徒に身に付けさせたい力（ゴールイメージ）を明確にした授業実践」授業（単元）を通して「何ができるようになるか（ゴールイメージ）」を明確にする。そのために「どのように学ぶか」について考え取り組む
- 公開授業による、市内各校への取組の横展開

安来市

指導案・配付資料等は
以下リンク及び
二次元コードから
ID・パスワードが必要です。



安来市

学力調査から見える児童生徒の課題

- ・算数・数学の問題の解法を説明したり、式や図の意味の説明、既習事項と関連させること【思考を伴う問題への対処】
- ・家庭学習が多くないこと【学習内容の定着に関する課題】
- ・授業への取組方等は肯定的な回答が多いものの、正答率との関連がみられないこと【情意と理解の乖離】

目指す子どもの姿（ゴールイメージ）

「ワクワク ゲンゲン ワイワイ学ぶ やすぎっ子」

- ワクワク = 意欲を持ち楽しんで学習に向かう姿
- ゲンゲン = 自己の学びを調整し確かな学力を身に付けた姿
- ワイワイ = 協働的な学びを通じてわかっていく姿

今年度の主な実践

「ワクワク」

本物に触れる出前授業

（松江工業高等専門学校・和鋼博物館）

→ 理系教科への意欲喚起

地域の「ひと・こと・もの」を活用して

成果指標「授業で学んだことをほかの学習に生かしている児童生徒の割合」の増加



「ゲンゲン」

AIドリルの活用（研究校・協力校）

→ 授業・家庭学習で活用し、家庭学習の習慣化に寄与

1か月の一人当たり解答数（令和5年9月 研究校データ）

小：300問以上 中：1000問以上

成果指標「平日に1時間以上家庭学習をしている児童生徒の割合」の増加



「ワイワイ」

協働的な学びを重視した授業改善

→ 対話的な学びの推進にICTを積極的に活用

成果指標「話し合いを通して考えを深めたり広げたりできていると思う児童生徒の割合」の増加



○研究校の取組を各校へ共有（授業公開・成果発表会）

○成果をもとに「授業づくりサイクル図」を作成

令和5年度の実践を受けた令和6年度への展望

- ・出前授業の計画的な実施（児童生徒が学んでいる単元に合わせた時期・内容で）
- ・AIドリルのより効果的な活用（児童生徒の実態に応じた取組方のブラッシュアップ）
- ・授業改善の一層の推進（市教研や小中高の連携を通して児童生徒が学ぶことの価値や学習の成果を実感できる授業づくり）

出雲市

指導案・配付資料等は
以下リンク及び
二次元コードから
ID・パスワードが必要です。



出雲市

全国学力・学習状況調査からわかる出雲市の児童生徒の強みと課題

強み：「授業はよくわかる」、「授業が好きだ」と回答する児童生徒が多い。
基礎的な知識・技能は身につけている。

課題：必要な情報を見出すこと、根拠となる事柄を示すこと、上位層が全国より少ない、数学用語などを用いて記述すること、条件に合うように記述すること等に課題がある。

出雲市が目指す子どもの姿

いっつも学びを楽しみ **ず**っと学び続け **も**っと学びを生かす ^(プラス) **+1**する 出雲の子ども

「授業改善」を「組織的に」進めるための2つの取組

1 めあてと振り返りを意識した「授業スタンダード」

取組の重点 単元や授業を構想する時の手順を「構想シート」にまとめる
「①ねらい(目標)」、「②まとめ」、「③課題」、「④課題追究の学習活動」
「⑤振り返り」、「⑥めあて」の6つのカテゴリーを順に考える。

2 授業における「PDCAフロー図」

【事前研究(P)】 → 【指導案作成(P)】 → 【研究授業(D)】 →

【研究協議(C)】 → 【ゴール到達のための支援(A)】

取組の重点 【事前研究(P)】と【研究協議(C)】の改善に取り組む

【事前研究(P)】 ねらい(目標)からゴールの具体的な姿を明確にし、そのための手立てを話し合う。ねらい(目標)を達成するために、ゴールから授業を構想する。

【研究協議(C)】 研究協議において「目標が達成できたかどうか」という視点で話し合う。その判断理由や根拠について話し合い、ゴール到達に至る効果的な手立てや改善点について話し合う。

→ 1,2を活用した「授業改善」の取組が「組織的に」進むよう、出雲市内の全小中学校において「年1回以上の、全教員参加による研究授業」を行う。



1人1台端末の活用による授業
-出雲市立第一中学校-



子どもの声をつなぐ授業
-出雲市立大津小学校-



出雲市学力向上推進プラン
の詳細はコチラ↑

令和5年度の取組を受けた令和6年度に向けた展望

- 1 児童生徒の「探究する力」、「意見や思いを表現する力」のさらなる育成
- 2 授業、家庭学習における一人一台端末の効果的な活用
- 3 若手教員の指導力の向上

雲南市

指導案・配付資料等は
以下二次元コード及びリンクから
ID・パスワードが必要です。



雲南市

- (1) 教師主導型の授業からの脱却
- (2) 「能力ベースの授業づくり」の具体化
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

基本
方針

子どもにとっても教師にとっても楽しい学校づくり

「楽しさ」はどのようにして生まれるのか 使命・ビジョン・願いの共有 = ロマンを感じること
⇒ 子どもも教師も当事者意識をもつ
⇒ 「自律」(自己決定) × 対話・協働
⇒ 有用感(ほめられるより感謝されること)

同志社女子大学 水本特任教授講演より



具現化するために

GIGAスクール構想の実現

ICTサポートデー⇒「学習内外での活用」へ
各校訪問により、「学びに活かす端末活用」を
めざす

様々な場面の有効的
な活用の推進



学習・集団づくり

「スリンプル・プログラム」の実践
「アドジャン」などの対話プログラ
ムを通して子どもたちが自他理解を
深める活動

学習集団作りに大きく寄与



ユニバーサルデザインの授業づくり

UD授業の在り方について研修を実施
「焦点化」「共有化」「視覚化」の重要性
アセスメントの仕方や活かし方

日々の授業の根底に据える



経験の浅い教員への支援

市内教員の学びを深める場の設定
授業プランニング講座(年10コマ)
生徒指導スキルアップ講座(年3コマ)
初任者・講師研修(年8コマ)
実践事例の共有(現在436例)

子どもにとって楽しい授業づくりへ



学習指導要領の趣旨の実現や学習評価の理解へつなげる授業づくり研修

「教科の見方・考え方を働かせ、〇〇の活動を通して、資質・能力を育成する」ために
島根県立大学 齋藤教授による能力ベースの授業づくり
研修を市内悉皆で実施(令和5年度年3回)
・参加者が当事者意識をもつように参加者同士で協議し指導案
を作成、実践、研修を行うパッケージ



学習指導要領の趣旨を重視した子供主体の授業が多く見られるようになった

- ・教科の見方・考え方を働かせる授業
 - ・〇〇活動を重視する授業
 - ・解答を求めるよりプロセスを重視する授業
 - ・児童生徒に説明しきらせる授業
- 算数・数学科の学習状況に変容が見られた**

「算数・数学の勉強は好き、大切、よくわかる」の質問に肯定的な回答をした
児童生徒の割合が増加

令和5年度の取組を受けた令和6年度に向けた展望

- ・「授業づくりのポイント」の具現化
- ・「読んで考えて書く力」を身に付ける授業づくり

大田市

指導案・配付資料等は
以下リンク及び
二次元コードから
ID・パスワードが必要です。



大田市

大田市の学力育成に関わる課題

- ・授業改善（主体的・対話的で深い学びを実現する「能力ベースの授業づくり」）
- ・豊かな体験を活かした探究的な学びの充実
- ・家庭学習の充実（目的・量・内容）
- ・授業でのタブレット等のICT機器の活用

今年度の実践 〔大田市学力育成アドバイザー：島根県立大学教授 齋藤一弥氏〕

（1）授業改善 『主体的・対話的で深い学びを実現する「能力ベースの授業づくり」』

○校種・教科等を超えて、共通の研究の視点で教員の授業力を向上させる。

【学校訪問通覧指導】

- ・市内全小中学校21校へ訪問指導を行い、54名の教員が個別指導を受けた。

【授業づくり講座】（教材研究会 & 授業研究会）

- ・年間10講座20回の研修会を計画し、延べ600名以上の教員が校種・教科を超えて参加した。

【おおだ教育講演会】

- ・「学び続ける教師」をテーマに、大田市内小中学校教員と齋藤一弥氏による座談会と講演会を行った。教員の授業改善に取り組む思いや願い、課題や今後の取組への期待の言葉が語られた。



（2）本物（専門家）に触れる豊かな体験 『豊かな体験を活かした探究的な学びの充実』

○驚き、感動、発見など内から湧き上がる興味・関心から、理系教科等への学ぶ意欲を育む。

【外部機関と連携した活動】

- ・島根県立三瓶自然館サヒメル「学習プログラム」（天文分野、地質分野、昆虫・自然分野）
- ・国立松江工業高等専門学校 「出張授業」 第一中学校1年「飛行機」、2年「ロケット」
- ・国立松江工業高等専門学校 「出張講座」 市内小学校2校で実施
- ・いわみプログラミング少年団「プログラミング学習」 市内小学校2校で実施



（3）「理科読」の推進

○観察や実験・工作などの体験と本の読み聞かせをはじめとする読書活動を結びつけ、子どもの科学的探究心と言葉を育む。科学読み物への興味・関心を高める。

【NPO法人「ガリレオ工房」と連携した理科読授業】

- ・大田小学校5年「電気プログラム」、仁摩小学校4年「水プログラム」、川合小学校2年「乳プログラム」



（4）教員が学ぶ場の開発・提供

○先進地視察や研修用資料等の情報発信を行い、自ら学ぼうとする教員、学校を支える。

【先進地視察・自主研修会（らとう会）】

- ・主体的に学ぼうとする教員の輪を広げようと、先進地視察や自主研修会の活動を行った。

【学力育成に係る資料のデータベース作成】

- ・学校と教育委員会の共有フォルダを作成し、「だれでも、いつでも、閲覧し活用できる」資料のデータベース化を進めた。
- ・教育委員会が「講座のまとめ」を作成し、市内小中学校へ学びの情報発信を行った。



令和5年度の取組を受けた令和6年度に向けた展望

- ・「授業改善（能力ベースの授業づくり）」と「本物（専門家）に触れる豊かな体験」を柱に、今年度の取組を継続し、さらに充実させていく。
- ・取組の状況や評価を市内小中学校、家庭・地域へ情報発信し、大田市全体の取組として広げていく。